碁老連から碁楽連、八碁連への変遷ー目的を辿る

記念誌編集委員会

はじめに

八王子囲碁連盟(八碁連)がどのように発展してきたかを、組織の柱である「目的」の変遷や時代背景などを辿って振り返ることにします。今回の八碁連の目的の改正がなぜ重要なのかといいますと、目的そのものが八碁連の会員が共通して有するべき価値観であり、目指す方向であり、達成すべき使命を明確にするものだからです。長い歴史を有する囲碁という伝統文化を継承し発展させるという普遍的な考えを会員間で共有し、そのことを次の世代に伝えていきたいと考えます。

初代の八碁連

八碁連の前身である組織名は「八王子の碁を楽しむ老人連合(碁老連)」といい、誠に長閑な名称です。初代会長であった熊崎正一氏は、平成元年の設立以来、碁老連ニュースを発行してきました。このニュースはガリ版刷りという懐かしいものです。手許にある平成 4 年 10 月碁老連ニュース第 33 号の冒頭には碁老連の目的が次のようにあります。

「ボケ防止のために、老人囲碁同好者の誰もが碁を楽しめることが出来るよう、機会と場所を確保するために相協力し、囲碁を通じて親睦を図り、更には、より良き福祉社会の建設に貢献することを念願とする」

この目的は実に可笑味のある、といって囲碁を愛好する人々に場を提供しようとした心意気が伝わる文言となっています。ボケとか痴呆という用語が使われ始めた頃です。しかし、まだボケをそんなに深刻に受けとめるような世相ではありませんでした。

平成元年といえば、国内では「消費税スタート」、「バブル経済」、「巨人、８年ぶり日本一」、そして海外では「ベルリンの壁の崩壊」、「天安門事件」、「東欧諸国で共産体制崩壊」などが新聞紙上を賑わせました。その年の流行語大賞金賞・

新語部門「セクシャル・ハラスメント」が選ばれるという世相です。「ほたる族」も生まれましたが、高齢化社会とか年金問題などはまだ切迫した社会問題とはならない時代です。

第二代目の八碁連

碁老連はやがて「八王子の碁を楽しむ活きいき連合(碁楽連)へと名称を変えます。平成 18 年 4 月のことです。碁楽連の初代の会長は由木寿囲碁同好会の会長であった竹島正義氏です。碁楽連の目的は次のように改正されていきます。

「碁楽連は、八王子市内に居住する高年者が、囲碁を通じて親睦を図り、かつ、健康を維持できるようにその機会を提供し、高年者の福祉の増進に寄与することを目的とする」

「高年者」という用語はあまり聞き慣れませんが、「年をとった、年寄り、高齢の」といった年齢を強調した表現を避け、「より経験豊かな、先任の」といった価値中立な表現を工夫して用いるような傾向が「高年者」に表れているようです。やがて「Senior(シニア)」とか「Silver(シルバー)」いう用語が流通します。新しく碁楽連の理事になった方々は、こうした用語の使い方に敏感であったことが伺われます。

平成 18 年は、国内では「皇室に 41 年ぶりの男子」とか「65 歳以上の人口率が世界最高、15 歳以下の人口率が世界最低に」、「安倍政権の発足」といった頃です。世界では、「北朝鮮が地下核実験」、「原油価格高騰、一時 78 ドル」、「冥王星を惑星から格下げ」といったことが報道された年です。流行語として 「脳トレ」、「格差社会」、「メタボリック・シンドローム（メタボ）」などが話題となり、庶民の健康への関心を呼び起こす時代へとなっていきます。そして 65 歳以上の人口が 21.5%となり、いわゆる「超高齢社会」に突入していきます。

碁楽連は、平成 24 年 1 月に「碁楽連活性化対策検討諮問委員会」より最終答申を受けます。そして次のような方針を立てます。すなわち、会員資格の年令については、「活きいき囲碁大会の参加資格の 60 歳以上、10 級以上の制限を外す」など、参加者や会員の若返りや世代交代を目指すことになります。さらに、青少年の囲碁愛好者の育成を視野に入れていきます。

そして八碁連

平成 24 年 4 月に碁楽連は八王子囲碁連盟(八碁連)と名称を変えます。会長は台町囲碁同好会の三上靖宏氏です。その目的は次のようになります。

「八碁連は、八王子市内に居住する囲碁愛好者が、囲碁を通じて親睦を図り、かつ、健康を維持できるよう機会を提供し、福祉の増進に寄与するとともに、棋力の向上を図ることを目的とする」

この目的では、「棋力の向上を図る」ことが追加されていますが、その他は碁楽連の目的と類似しています。「福祉の増進に寄与する」というフレーズは、福祉の主体は一体誰なのかがわかりにくい表現です。むしろ「個人の幸せに寄与する」という表記のほうがわかりやすかったようです。

とはいえ、碁楽連の活性化対策検討諮問委員会の方針を受けて、八碁連は、外向きの活動をさらに志向していきます。その一例が、「学校への囲碁導入について」という話題をもって八王子市教育委員会教育長・同学校教育部長・同生涯学習スポーツ部長・同子ども家庭部長・八王子市議会議員らと会合を持ったことです。こうした背景には、日本棋院からの要望もあったのですが、八碁連が囲碁愛好者の健康や棋力の向上のみならず、囲碁という伝統文化の継承と発展を青少年に託していこうという精神に表れていると思います。このような努力により、今や放課後子ども囲碁教室などが市内の小中学校で増えつつあります。平成 25 年 8 月には、日本棋院八碁連支部を設立し、大会の後援やプロ棋士の派遣などの支援を受け、日本棋院との関係強化を図っていきます。

今回の八碁連の目的改正は、理事会において提起され慎重に協議しながら、同好会長会において討議され、11 月 6 日の臨時総会で改正が承認されました。今度の改正は、これまで述べてきたような時代の変化や組織の活性化、囲碁人口の底辺の拡大といった使命を再確認するものです。そして八碁連は次の 5 年、10 年後を見据えて活動し、さらに発展していくことが期待されます。会員の一層の努力や奮起が求められています。

改正された目的

「八碁連は市民が、伝統文化である囲碁を通じて親睦を図り、健康が維持できるような機会を提供し棋力の向上を目指すとともに、囲碁の啓蒙と普及に努めることを目的とする」

おわりに

　世界最古で最も権威のあるブリタニカ百科事典によりますと、囲碁は 4000 年前に中国で生まれた世界で最も旧いゲームであると記述されています。日本に囲碁が入ってきたのは西暦 500 年頃で平安時代に広まったといわれます。時代を経て日本棋院が設立されたのは 1924 年。ヨーロッパ囲碁連盟は 1950 年に設立されます。最初に囲碁の世界大会が開かれたのは 1979 年で、世界囲碁連盟が東京で生まれたのは 1982 年です。今や 4000 年の囲碁の歴史が私たちを見つめています。私ども一人ひとりの会員は、この尊い伝統文化「囲碁」の啓蒙と普及に努めることの一翼を担っています。